

北部病院だより 第108号(2017.6)

Showa University Northern Yokohama Hospital

【巻頭言】 心臓血管外科医としての思い

【TOPICS】 5月行事食のご紹介

【医師の配属・異動】 【診療統計】

【TOPICS】 世界トライアスロンシリーズ横浜大会に協力しました

【患者さんからのご意見・ご要望】

【TOPICS】 食中毒に気をつけましょう

【お知らせ】 セタのイベントのご案内

【TOPICS】 看護の日イベントを開催しました



雨が多い6月を水無月と呼ぶ理由をご存知ですか？

「無」はいまの「の」にあたり、「水の月」という意味だそうです。同じく11月の神無月も「神の月」という意味になります。

巻頭言 ～心臓血管外科医としての思い～

循環器センター教授職を拝命しております南淵明宏（なぶち あきひろ）と申します。私は長年心臓外科医療にどっぷり浸かってきました。心臓外科手術の職人を自認し、またそれを誉れある称号と心得ています。この昭和大学で賜りました役職の立場からこれまでの経験を生かし、そしてさらに気力を充実させ、広く社会に貢献したいと考えております。

さて、私自身、これまで心臓外科手術の患者さんしか診ていない、と言えるかも知れません。さらに言えば、心臓手術を受ける患者さんの心臓、それも病変である冠動脈や心臓弁しか観ていない、というのが実情なのかも知れません。心臓手術を受けるために私のもとを訪れる患者さんは大きな不安に包まれています。



循環器センター
教授 南淵 明宏

私の第一の関心は冠動脈がどれほど詰まりかけているのか、心臓がどれほど弱っているのか、心臓の弁がどれほど逆流しているのか、という点です。反省を込めて申し上げますが、病院は元来、患者さんの心を扱うものでなければなりません。患者さんはなぜ病院に来るのでしょうか。不安だからです。一生懸命に生きてきた人生に、突然降りかかった病気という一大事件。理不尽の極みです。これからどうなるのか？ お金は？ 家族は？ 何事もなかった今までの日常が愛（いと）しく思えます。巨岩で押しつぶされるが如き苦境。この状況をなんとか消し去りたい。それゆえ、待たされても文句を言わず検査を受け、わかりにくい医者の説明を聞いて分かった振りをし、しぶしぶ検査を受ける。結果、医者からはさらにその不安を強めるようなことを告げられます。逃げ出したいけれども、この不安をとにかく何とかしたい。言われるまま、この病院で治療を受けてやろうじゃないか。

このように、患者さんの忍耐とご理解と勇気でなりたっているのが医療です。そして紛れもない私の心臓外科手術でもあります。心臓手術の成功を後に手術室を出るとき、私はいつも、手術に果然と正面から挑んできた患者さんの勇気を称え、感謝します。この気持ちは、命に対する畏敬（いけい）の念から来るものだと思います。決して十分ではありませんが、これが私の至誠の第一歩と考えます。

昭和大学は至誠一貫、とことん誠を尽くすこと、を学銘としています。

患者さんの心の奥底に占座する不安を退治すべく、これからも職員の皆と一丸となって一生懸命がんばっていこうと思います。これからはどうか患者さんにおかれましてはどのような汚濁を飲み干す大海のごとき寛大さで、我々医療関係者に御寛容なお気持ちで臨んでいただきたいとお願いいたします。

そして病気になったことがなく、故に患者さんの痛みなど想像するしかない、若輩者の我々をご指導下さい。当院の職員のマインドには「前例がない」を理由に患者さんのご要望をお断りする、保身第一のぶら下がり公務員の気質はありません。例外大好き！そんな「おもしろい」心を持った人間が揃っております。日々、新たな出会い、発見、そして可能性に挑戦する病院です。

どうか御支援、ご指導のほどお願いいたします。

TOPICS ～5月行事食のご紹介～

栄養科では、食事が皆様にとって少しでも入院療養中の楽しみになればとの思いをこめ、季節ごとに行事食を提供しています。

5月5日は端午の節句。日本ではこの日に、こいのぼりを立て、武者人形を飾り、かしわ餅やちまきを食べて男の子の勇ましい成長や無病息災を願います。かしわの木は新芽が出るまで古い葉が落ちないということから、子孫代々栄えるようにといった思いが込められています。

5月5日の給食では、噛む力が弱い方でもお楽しみいただけるよう、かしわ餅ではなく水まんじゅうを提供させていただきました。



<5月5日一般常食A>

五目ごはん、煮魚、もやしソテー、辛子酢味噌和え、水まんじゅう

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

2017 年 6 月

【新規採用】

・ 橋本 徳 (麻酔科) 神戸海星病院より

【附属施設より】

・ 齋藤 秀嘉 (こどもセンター) 江東豊洲病院 こどもセンターより
・ 水越 曜子 (こどもセンター) 大学病院 小児科より

異動・退職医師

2017 年 6 月

【附属施設へ】

・ 長谷部 義幸 (こどもセンター ⇒ 大学病院 小児科)

診療統計

前年同月比 ()内は 1 日平均

診療実日数 2016 年 4 月 (入院：30 日・外来：25 日)、2017 年 4 月 (入院：30 日・外来：24 日)

	入院患者数	外来患者数	救急搬送数	手術件数
2016 年 4 月	17,644 人(588.1 人)	27,697 人(1,107.9 人)	424 件(14.1 件)	731 件(36.6 件)
2017 年 4 月	17,688 人(589.6 人)	26,552 人(1,106.3 人)	424 件(14.1 件)	643 件(32.2 件)

TOPICS ～世界トライアスロンシリーズ横浜大会に協力しました～

5 月 13 日 (土)・14 日 (日) に 2017 世界トライアスロンシリーズ横浜大会が開催されました。

初日はあいにくの雨天候となりましたが、2 日目は、日は射さないまでも参加選手、応援の方々にとっても過ごしやすい天候でした。本大会は 2009 年に横浜開港 150 周年記念事業として開催され、今大会は 8 回目となりました。各国から集まった選手、市民アスリートが街を駆け巡る姿は横浜の風物詩となってきています。

当院は、初回大会より医師・看護師・事務のメディカルチームとして参加しており、今大会も重大な負傷者もなく成功に貢献することが出来ました。トライアスロンは皆さんも御存知のとおり 3 種目を達成する複合競技です。今大会での世界選手の華麗な姿も圧巻されるものでしたが、参加選手の方々の生き生きとした表情や姿から過酷さを超える魅力を感じ取れました。来年度の開催も決定しています。皆さんも是非横浜の景色と共にご覧になってみてください。

(5A 病棟 師長 有馬 理加)



＜メディカルスタッフの活動の様子＞



＜メディカルスタッフ集合写真＞

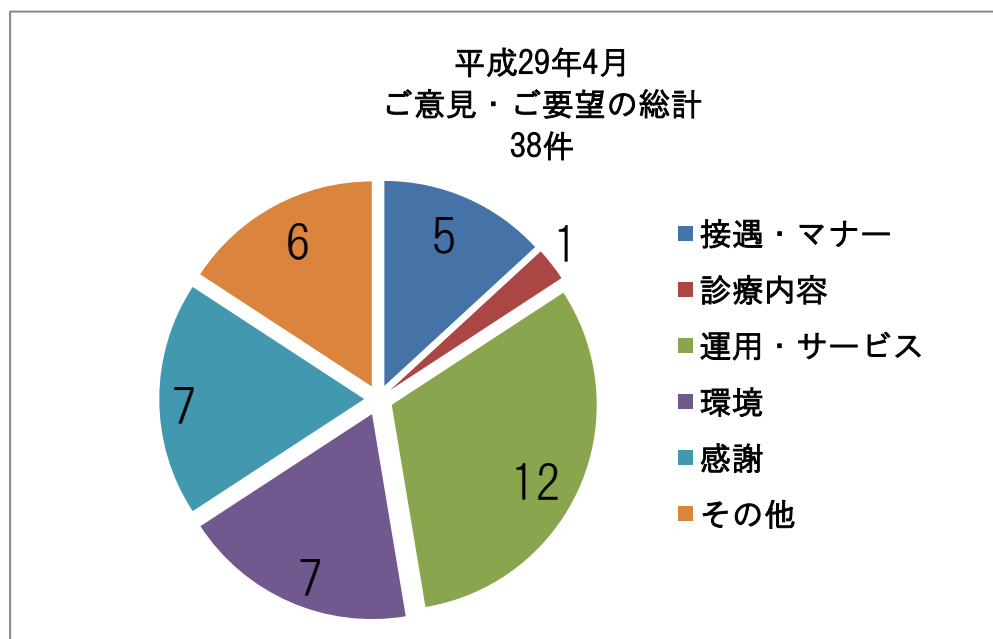
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより頂きましたご意見・ご要望に関しましては、院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきます。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<運用・サービスについて> 糖尿病で受診しています。甘い飲み物は避けるよう先生に言われましたが、病院のコンビニに無糖の飲み物が少ないと思います。 もう少し種類を増やしてもらえないでしょうか。 他計 11 件	飲料の品揃えに関しまして、ご不便な思いをさせてしまったことを深くお詫び申し上げます。 現在、無糖の飲み物の取り扱いがございますが、商品のラインナップの見直し、需要・要望の多い商品の取り扱いに向けて、準備していきたいと考えております。 また、今後ともいろいろな方々にご利用いただけるよう、随時協議をしていきたいと考えております。この度は貴重なご意見ありがとうございました。
<環境について> いつも清掃が行き届いており、大変感心しています。 しかし、ランドリー室の洗剤入れポケットが汚れています。どのタイミングで清掃されているのでしょうか。 他計 6 件	この度は不快な思いをさせてしまい、申し訳ございませんでした。 洗濯ゴミ、乾燥ゴミは毎日取り除いておりますが、ご指摘の通り洗剤入れについては、定期清掃の期日を設定しておりませんでした。毎月月末に定期的に洗剤入れのクリーニングを行うよう周知致しました。 ご利用の患者さんに気持ちよく使用していただけるよう努めてまいります。貴重なご意見ありがとうございました。
<感謝について> 北部病院には 15 年ほどお世話になっております。 入口回転ドアの四季折々のオブジェには本当に心を和ませていただいております。年々腕を上げられ、くまモンに乗った金太郎は本当に素晴らしかったです。いつも楽しませて下さり、ありがとうございます。 他計 6 件	



TOPICS ～食中毒に気をつけましょう～

日本の生食を好む文化は珍しいようです。「採れたて」「活」という文字を見ると美味しそうに感じ、心が誘われませんか。しかしそこには食中毒という危険が潜んでいます。食中毒とは食品、添加物、器具、又は容器包装に含まれた又は付着した細菌、ウイルスなどの微生物、化学物質、自然毒等を摂取することによって起きる下痢、嘔吐や発熱などの健康被害のことです。平成 27 年に食品衛生法に基づいて届け出された食中毒は 1202 件、患者数は 22718 人で、人口 10 万人当たり 17.9 人が罹患しています。しかし届け出されず原因を特定されないものを含めるとこの数十倍になると考えられています。



感染管理室長

曾我 恭司（こどもセンター）

私たちの生活様式の変化に伴い食中毒の原因は変化し 1990 年代前半までその大半が腸炎ビブリオ、サルモネラ、黄色ブドウ球菌などが主体でしたが、最近はカンピロバクター、ノロウイルス、サルモネラが主体となっています。その他、病原性大腸菌や黄色ブドウ球菌、ウェルシュ菌などが原因になることがあります。食中毒の原因菌はどこにでも存在しており、家畜や鶏の腸管内にはカンピロバクターやサルモネラ、牛の腸管には病原性大腸菌、海水や海中の泥には腸炎ビブリオ、下水、河川、海、耕地などの土壌にはウェルシュ菌が存在しています。また調理者の手指や鼻前庭には黄色ブドウ球菌が常在しています。好発時期はノロウイルスが冬季に多いため 2 極化していますが、細菌性食中毒は夏季に多くこれから注意を要する時期になります。菌は高温多湿を好むため、夏季は食中毒菌が増殖するのにとても良い環境であり、少数の菌が短時間に食中毒をおこしうる菌数に増殖しやすくなります。魚や肉といった生鮮食材は“鮮度が良い”でも“活”でも、食中毒菌、ウイルスがわずかでも付着していれば食中毒を発症する危険があるということです。

食中毒の予防方法

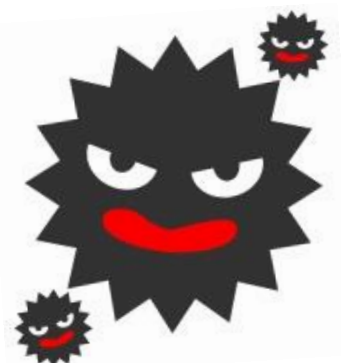
食中毒の予防は体調を整えることと、菌をつけない、増やさない、やっつけることです。菌をつけないためには食材、まな板や包丁などの調理器具、手をよく洗いましょう。調理者が手指をけがしているときは黄色ブドウ球菌の感染の危険が高くなります。増やさないためには食材は冷蔵庫で保存しましょう。しかし低温でも繁殖が遅くなるだけで死滅することも、繁殖停止することはありません。冷蔵庫の過信は危険です。感染の最も効果的な予防は加熱です。食中毒の原因となる多くの細菌やウイルスは熱に弱く 85℃ 1 分以上の加熱でほぼ死滅します。しかしウェルシュ菌は加熱しても死滅することなく、しばしば作り置いたカレーやシチューの中で繁殖し食中毒を引き起こします。



つまり食材はその中心部まで十分に加熱調理を行い、作り置きをせず、出来立てを食べれば残存した菌があってもその数は少数になっており食中毒を発症する危険はかなり低くなるはずですが、刺身、寿司、肉などの生食はとても魅力的ですが、食中毒の危険を理解し、体調のすぐれないとき、疾病により抵抗力が低下している方、幼児、高齢者の方は十分に加熱調理したものを食べるようにして下さい。



ベッドサイドにある個人用
冷蔵庫の上は程よく暖かく
て、過ごしやすいなあ



お知らせ ～6月のイベントのご案内～

①【6月3日(土) 13:00～】春期市民公開講座

「過活動膀胱について」「パーキンソン病について」の2演題の講演を当院西棟4階講堂にて実施いたします。受講料は無料で、聴覚障害の方もお気軽にご参加いただけるように手話通訳・音声通訳、要約筆記、磁気ループをご用意しております。

※問い合わせ先：管理課 045-949-7000(代表)

②【6月3日(土) 14:30～】病院見学会(医学部生向け)

研修医の1日や研修生活を研修医がお伝えするとともに、研修医・指導医との懇親の場もあります。

※問い合わせ先：昭和大学医学部卒後臨床研修センター 03-3784-8299

③七夕飾り

6月20日頃より、中央棟1階正面入口前に七夕の笹飾りを設置します。短冊の記載台も設置いたしますので、ご来院いただいた皆さんも是非とも笹の葉にお願いごとをくくりつけてみてください！



＜昨年度の七夕飾り＞

TOPICS ～「看護の日」イベントを実施しました～

5月12日(金)に横浜市北部病院看護部「つくしの会」主催で1階外来にてイベントを開催しました。5月12日は、ナイチンゲールが生誕した日であり、この日を「看護の日」とし、高齢化社会を支えていくために、看護の心、ケアの心、助け合いの心を私たち一人一人が分かち合い、老若男女問わず、誰もが育むきっかけになるように制定されました。今回のイベントは看護の日にあわせ、外来を訪れた患者さんやそのご家族と看護についての思いや病気や介護について、話す機会を設けました。「手術後、退院して本当に自宅に連れて帰って良かったです。いいアドバイスをありがとうございました。」「看護師さん、こんなに元気になったよ。仕事もできるようになったよ。」「入院中は親切にして下さってありがとう。」という非常にありがたい言葉をいただきました。



＜イベント中の様子＞
(お話を伺う佐々木師長)

しかしながら、「癌って宣告され、真っ暗になりました。これからの治療もわからない、不安です。」「今、飲んでいる薬が必要ないと思いますがどうでしょうか?」「こんな運動をやっているがいいですか?」というお言葉もいただくこともありました。治療後、退院してからの生活のイメージがつかない、今後の治療方針がわからない、介護はつらいという気持ちをうかがい、私たち看護師は、患者さんや家族の気持ちに寄り添えるようにしていきたい、もっと患者さんやご家族の方がわかるようにお話をしなくてはいけないと、心からそう思いました。

「北部病院で看護を受けられる人に最善の結果をもたらすために、私たちは最善を尽くします」という看護部理念に基づき、患者さんの信頼に応えられるような看護を提供できるようにしたいと考えております。今回、たくさんの貴重なお話ししてくださった患者さん、ご家族の方々、本当にありがとうございました。

つくしの会 会長 佐々木 仁美(8B病棟師長)

※つくしの会・・・
看護師が親睦と相互理解深めるために活動し、研修会の企画等を実施しています。
「つくし」には「都筑の地に根を張る『つくし』のように伸びやかに」という意味が込められています。

～編集後記～

北部病院の理念の一つに、“現在望みうる最高の医療を行う”ことが掲げられています。この理念は揺るぎないものではありませんが、昨今労働基準法に照らした働き方改革の波は病院職員にも及び、労働時間を意識した、より効率的な仕事配分が求められています。労働時間と過労死のラインを結びつける論調にはやや疑問を感じるものの、心身ともに健康で、気持ちに余裕のある医療従事者でなければ良質な医療は提供できないというのも事実であります。働き方を変えることで、患者さんも職員もハッピーになることを期待しています。

(呼吸器センター 准教授 北見 明彦)

北部病院だより 第108号

平成29年6月1日発行

発行責任者 門倉 光隆(昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 緒方 浩顕(広報委員会委員長)

発行 地域中核病院 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。